

「県立高等学校教育改革第三次実施計画」の推進

1 趣 旨

変化の激しい時代を迎える中、社会の変化に柔軟に対応し「学びたいことが学べる魅力と活力ある学校づくり」に向けて策定・公表(R4年3月)した「県立高等学校教育改革第三次実施計画」に基づき、①県立高等学校の魅力・特色づくりの推進 ②県立高等学校(全日制)の望ましい規模と配置 ③入学者選抜制度・方法の工夫と改善を進めていく。

今回、県立高等学校(全日制)の望ましい規模と配置に向けた令和7年度発展的統合の取組を行う。

[望ましい規模と配置]

(1) 背景

- ・少子化による生徒数の減少が教育環境に大きな影響を与えている。
- ・生徒数や教職員数が減少することで、学校での多様な学びや部活動等に支障を来し、これまで築いてきた魅力・特色を維持することが困難となる。加えて、授業や部活動以外の校務における教職員の負担もさらに増加していく。
- ・望ましい規模を確保し魅力と活力ある教育活動を維持することが喫緊の課題である。

(2) 基本方向と進め方

- ・普通科・総合学科で1学年6～8学級、職業学科の単独校で1学年3学級以上の望ましい規模となるよう、原則、発展的統合によりその規模を確保し配置を検討する。
- ・発展的統合は概ね3年前に公表し、その後、関係校で委員会を設置し、設置学科や特色類型、教育課程の研究など、発展的統合校に関する準備を行う。

2 望ましい規模と配置

第三次実施計画で示している令和7年度の発展的統合実施の地域において、具体的に以下の6組14校の発展的統合を実施し、より一層魅力と活力ある学校づくりを行う。

[対象校を選定するに当たっての主な観点[2～3P参照]]

- ・現在の学校規模及び生徒数の動向
- ・統合前に連携した教育活動を行うための距離的・時間的位置

学区(地域)	対 象 校
第1学区 (神戸・芦屋地域)	県立神戸北高等学校・県立神戸甲北高等学校
	県立伊川谷高等学校・県立伊川谷北高等学校
第2学区 (阪神地域)	県立西宮北高等学校・県立西宮甲山高等学校
第3学区 (北播磨地域)	県立三木北高等学校・県立三木東高等学校・ 県立吉川高等学校
第4学区 (中播磨地域)	県立姫路南高等学校・県立網干高等学校・ 県立家島高等学校
	県立福崎高等学校・県立夢前高等学校

※なお、「第三次実施計画」では、発展的統合を令和7年度に7組16校としていたが、中播磨地域の1組2校は、姫路市における市立高等学校の再編計画の検討状況を踏まえる必要があることから、令和7年度の発展的統合は実施せず、検討を継続する。
※対象校は、令和7年度入学者選抜で募集停止。(R5・R6年度入学者選抜は実施)

<参 考>

発展的統合対象校	説 明	
県立神戸北高等学校 県立神戸甲北高等学校	背景	・少子化により学区全体の小規模化が懸念される旧神戸第二学区（第1学区）にあつて、特に神戸市北区の生徒数の大幅な減少が見込まれている。（公立中学校卒業生数 R4.3：1,975 人→R7.3：1,813 人（△162 人）→R13.3：1,523 人（△452 人）） ・神戸市北区に所在する小規模化した2校（R4 第1学年 c1 数：神戸北4c1、神戸甲北5c1）を統合して学校規模を大きくすることにより、多様な学びが可能となる新しい学校に再編し、教育活動の活性化を図る。
	方向性	・神戸北の「福祉実践等を通じてボランティア精神を育む教育」や、神戸甲北の「多様な言語選択による国際理解教育」など、各校の教育実践の特色を継承・発展させ、より一層魅力と活力ある学校となるよう、教育内容等の検討を進める。
県立伊川谷高等学校 県立伊川谷北高等学校	背景	・少子化により学区全体の小規模化が懸念される旧神戸第三学区（第1学区）にあつて、特に神戸市西区の生徒数の大幅な減少が見込まれている。（公立中学校卒業生数 R4.3：2,218 人→R7.3：2,065 人（△153 人）→R13.3：1,584 人（△634 人）） ・神戸市西区に所在し、直線距離で約1.5kmと近接する小規模化が見込まれる2校（R4 第1学年 c1 数：伊川谷5c1、伊川谷北6c1）を統合して学校規模を大きくすることにより、多様な学びが可能となる新しい学校に再編し、教育活動の活性化を図る。
	方向性	・伊川谷の「コミュニケーション能力を育む教育」や、伊川谷北の「芸術を軸とした創造性を育む教育」など、各校の教育実践の特色を継承・発展させ、より一層魅力と活力ある学校となるよう、教育内容等の検討を進める。
県立西宮北高等学校 県立西宮甲山高等学校	背景	・少子化により学区全体の小規模化が懸念される阪神地域（第2学区）にあつて、特に西宮市の生徒数の大幅な減少が見込まれている。（公立中学校卒業生数 R4.3：3,766 人→R7.3：3,572 人（△194 人）→R13.3：3,308 人（△458 人）） ・西宮市に所在し、直線距離で約1.9kmと近接する小規模化した2校（R4 第1学年 c1 数：西宮北5c1、西宮甲山4c1）を統合して学校規模を大きくすることにより、多様な学びが可能となる新しい学校に再編し、教育活動の活性化を図る。
	方向性	・西宮北の「グローバル化に対応した教育」や、西宮甲山の「教育人材を育成する教育」など、各校の教育実践の特色を継承・発展させ、より一層魅力と活力ある学校となるよう、教育内容等の検討を進める。

発展的統合対象校	説 明	
県立三木北高等学校 県立三木東高等学校 県立吉川高等学校	背景	・少子化により学区全体の小規模化が懸念される旧北播学区（第3学区）にあつて、特に三木市の生徒数の大幅な減少が見込まれている。（公立中学校卒業生数 R4. 3: 649 人→R7. 3: 552 人（△97 人）→R13. 3: 515 人（△134 人）） ・三木市に所在する小規模化した3校（R4 第1学年 c1 数：三木北 3 c1、三木東 5 c1、吉川 2 c1）を統合して学校規模を大きくすることにより、多様な学びが可能となる新しい学校に再編し、教育活動の活性化を図る。
	方向性	・三木北の「人と環境をテーマとした教育」、三木東の「学び続ける力を育むキャリア教育」、吉川の「情報スキルを高める教育」など、各校の教育実践の特色を継承・発展させ、より一層魅力と活力ある学校となるよう、教育内容等の検討を進める。
県立姫路南高等学校 県立網干高等学校 県立家島高等学校	背景	・少子化により学区全体の小規模化が懸念される旧姫路・福崎学区（第4学区）にあつて、特に姫路市の生徒数の大幅な減少が見込まれている。（公立中学校卒業生数 R4. 3：4, 705 人→R7. 3：4, 547 人（△158 人）→R13. 3：4, 145 人（△560 人）） ・姫路市に所在する小規模化した3校（R4 第1学年 c1 数：姫路南 5 c1、網干 4 c1、家島 1 c1）を統合して学校規模を大きくすることにより、多様な学びが可能となる新しい学校に再編し、教育活動の活性化を図る。
	方向性	・姫路南の「音楽・スポーツを通じて主体性を育む教育」、網干の「国際交流を軸とした国際理解教育」、家島の「体験型授業を軸とした実践的教育」など、各校の教育実践の特色を継承・発展させ、より一層魅力と活力ある学校となるよう、教育内容等の検討を進める。
県立福崎高等学校 県立夢前高等学校	背景	・少子化により学区全体の小規模化が懸念される旧姫路・福崎学区（第4学区）にあつて、姫路市及び神崎郡の生徒数の大幅な減少が見込まれている。（公立中学校卒業生数 R4. 3: 5, 059 人→R7. 3: 4, 925 人（△134 人）→R13. 3：4, 453 人（△606 人）） ・直線距離で約 5.8km と近接する小規模化した2校（R4 第1学年 c1 数：福崎 4 c1、夢前 2 c1）を統合して学校規模を大きくすることにより、多様な学びが可能となる新しい学校に再編し、教育活動の活性化を図る。
	方向性	・福崎の「大学等との連携による理数教育」や、夢前の「ボランティア活動を軸とした体験型教育」など、各校の教育実践の特色を継承・発展させ、より一層魅力と活力ある学校となるよう、教育内容等の検討を進める。

3 入学者選抜制度・方法の工夫と改善

北播磨地域（１組３校）の発展的統合に伴い、令和７年度入学者選抜から、三田市と三木市を隣接区域とする。

〔隣接区域〕

複数志願選抜において、隣接する通学区域に所在する高等学校の受検が認められた一部の市区町。

<参 考>

居住市区町	隣接区域	高等学校名
神戸市北区	西宮市	鳴尾、 <u>西宮北</u> 、 <u>西宮甲山</u> 、西宮南、西宮、西宮今津、市立西宮、市立西宮東
	三田市	北摂三田、三田西陵、三田祥雲館、有馬
	三木市	三木、 <u>三木北</u> 、 <u>吉川</u> 、 <u>三木東</u>
神戸市西区	明石市	明石、明石北、明石城西、明石清水、明石西、明石南
	三木市	三木、 <u>三木北</u> 、 <u>吉川</u> 、 <u>三木東</u>
西宮市	神戸市北区	神戸鈴蘭台、 <u>神戸北</u> 、 <u>神戸甲北</u>
三田市	神戸市北区	神戸鈴蘭台、 <u>神戸北</u> 、 <u>神戸甲北</u>
	三木市	三木、 <u>三木北</u> 、 <u>吉川</u> 、 <u>三木東</u>
明石市	神戸市西区	<u>伊川谷北</u> 、 <u>伊川谷</u> 、神戸高塚
	淡路市	津名、淡路
淡路市	明石市	明石、明石北、明石城西、明石清水、明石西、明石南
三木市	神戸市北区	神戸鈴蘭台、 <u>神戸北</u> 、 <u>神戸甲北</u>
	神戸市西区	<u>伊川谷北</u> 、 <u>伊川谷</u> 、神戸高塚
	三田市	北摂三田、三田西陵、三田祥雲館、有馬
高砂市	姫路市	姫路別所、姫路西、姫路飾西、 <u>姫路南</u> 、網干、家島、 <u>夢前</u> 、姫路東、香寺、市立姫路、市立琴丘、市立飾磨
姫路市	高砂市	高砂、高砂南、松陽
神河町	朝来市	生野、和田山
朝来市	神河町	神崎

※ **太囲み**は、新たに設定する隣接区域。

※ 下線は、令和７年度に発展的統合を実施する高校。

4 今後の推進方法

(1) 発展的統合に向けた検討委員会の設置

発展的統合を行う学校ごとに「発展的統合に向けた検討委員会」を設置し、発展的統合対象校の特色・伝統の継承・発展や、新たな魅力・特色づくりについて協議を進めるとともに、学校評議員や学校関係者評価、生徒アンケート等も活用しながら、中・高校生や保護者、卒業生、地域関係者等からの意見聴取にも努め、発展的統合校における基本計画を検討する。

〔組 織〕

発展的統合に向けた検討委員会

〈検討内容〉

- ・対象校が培ってきた特色ある教育活動の継承・発展
- ・大学連携・ICT活用・国際交流など、新たな魅力ある教育活動の創出
- ・普通科新学科やSTEAMに関する学科など、特色ある学科等の設置検討
- ・統合前における学校行事や部活動等の交流・連携による活力ある教育活動の維持
- ・魅力ある教育活動の実現に必要な新たな施設・設備の整備

〈構成員〉

- ・学識経験者
- ・発展的統合対象校の校長及び教頭
- ・市町教育委員会
- ・県教育委員会 等

校内検討組織

学校教職員

学校評議員 ※1

学校関係者評価委員 ※2

生徒アンケート 等

※1「学校評議員」…学識経験者、保護者、地域住民等で構成し、校長が行う学校運営に関して意見を述べる。

※2「学校関係者評価委員」…保護者、地域住民等で構成し、学校目標の設定やその達成状況等学校が行う自己評価の結果に対して評価を行う。
(構成員：学識経験者、保護者、中学校長、同窓会、自治会 等)

(2) 今後のスケジュール

R4. 7～12 末まで		R5. 1～12 末まで		R7. 1. 1	R7. 4. 1
発展的統合 に向けた 検討委員会	基本計画の 発表	発展的統合校 開設準備 委員会	実施計画の 発表	発展的統合校 設置	発展的統合校 開校
	・教育活動 の特色 ・想定設置 場所		・学校名(仮称) ・設置場所 ・設置学科 ・教育課程概要		

【参考資料】

- 中学生・保護者向け広報チラシ
- 「ひょうご未来の高校教育あり方検討委員会報告書」概要版（令和3年3月）
- 「県立高等学校教育改革第三次実施計画」概要版（令和4年3月）

中学生・保護者のみなさんへ

発展的統合により 魅力と活力ある高校づくりをすすめます

兵庫県教育委員会では、令和4年3月に「県立高等学校教育改革第三次実施計画」を策定しました。①学科改編等による魅力・特色づくりの推進、②発展的統合による望ましい規模の確保、③入学者選抜制度の工夫・改善により、魅力と活力ある高校づくりを進めます。

県立高等学校教育改革
第三次実施計画



令和7年度に実施する発展的統合

複数の学校の特色・伝統を引き継ぎ、さらに発展させる「発展的統合」により、学校の規模を大きくして、より多くの友人・教職員とのふれあいの中で、生き生きと高校生活を送ることができる教育環境を整えます。

学区別対象校

第1学区	神戸北・神戸甲北	伊川谷・伊川谷北
第2学区	西宮北・西宮甲山	
第3学区	三木北・三木東・吉川	
第4学区	姫路南・網干・家島	福崎・夢前

記者発表資料

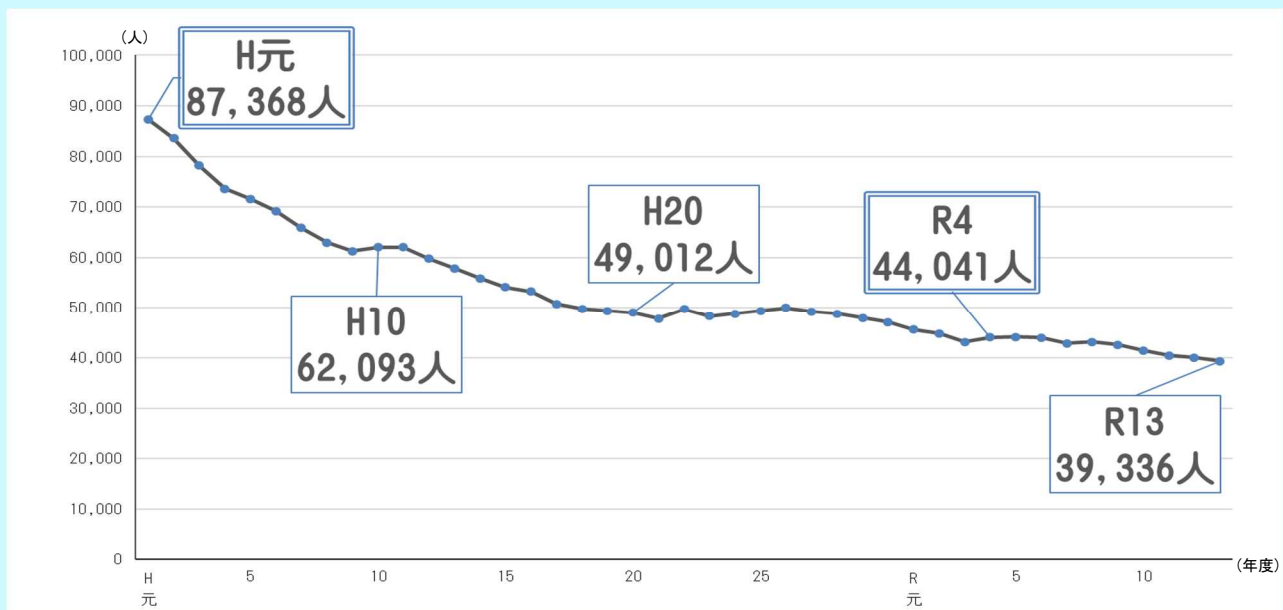


発展的統合までのスケジュール

令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	令和7(2025)年度
新しい高校の 特色・設置場所 の公表	新しい高校の 学校名・設置学科 の公表 対象校は令和6年度入学者選抜まで これまでどおり募集を行います。 現中学2・3年生		新しい高校として 募集を行います。 現中学1年生

国・公立中学校卒業生数と県立全日制高等学校数等の推移

●国・公立中学校卒業生数(R5以降は見込者数)



●平成元年以降の状況の変化

	平成元年3月	令和4年3月	
国公立中学校卒業生数	87,368 人	44,041 人	R13推計 39,336人で、以降、更に減少の見込み 約 30 年間、学校数はほぼ維持 各校平均3～4学級減少し、小規模化が進行
県立全日制高等学校数	128 校	125 校	
第1学年の平均学級数	8.9 学級	5.3 学級	

発展的統合に関するQ & A

Q 学級数が増えること以外に、発展的統合のメリットはありますか？

学校の規模が大きくなると、配置できる教職員数も増えるので、多くの選択科目で専門の教員による充実した指導が受けられるなど、多様な学びが展開できます。また、生徒数が増えることで、これまで以上に、活気ある学校行事や活発な部活動が展開できます。

Q 発展的統合によって統合対象校はなくなってしまうのですか？

統合対象校それぞれの特色や伝統を引き継ぎ、新しい高校をつくります。

Q 学校数が減ると、高校に入学しにくくなるのではないですか？

学区ごとに必要な学級数は、これまでと同様、中学校卒業生数に応じて確保しますので、高校に入りにくくなるということはありません。

Q 学級数が少なくなると、どんな支障があるのですか？

高校教育に必要な選択科目の設置などによる多様な学びの展開、活気ある学校行事や活発な部活動などの維持が難しくなります。

Q 30人学級などの少人数学級にすれば、統合しなくても良いのではないですか？

少人数学級にしても、学校全体の生徒数が増えなければ、活気ある学校行事や活発な部活動などの維持は難しくなります。また、配置できる教職員数は増えないので、多様な学びを展開することも難しくなります。

高等学校教育を取り巻く環境と課題

- ◇本格的な人口減少・少子高齢化に加え、ICT や AI 等の情報技術の急速な発達をもたらすグローバル化のさらなる進展に伴い、今の大人が経験したことのない、変化が激しく予測が難しい時代を迎えている。
- ◇Society5.0 時代においても、子どもたちが自らの幸福を追求し、生き生きと活動できるよう、変化に柔軟に対応し、新たな社会を創造し、先導する力を育成することが必要である。
- ◇高等学校卒業後も大学や社会において学びを深めたり、実社会において様々な課題に接したりする際に必要となる力として、文系・理系など既存領域に囚われることなく、多分野にわたり知識や技能を総合的に活用できる能力を養うことが求められている。

高等学校で育成する力

- ◇思いやりや寛容の心を持ち、人格の形成を主体的に求め続ける力
- ◇他者と協働しながら身の周りの社会的な課題に対応できる力
- ◇多様な価値観を受け入れたうえで物事を創造できる力
- ◇困難な状況に接しても、しなやかに対応できる力
- ◇正確に情報を受け取ったうえで自分の考えを論理的に発信できる力
- ◇主権者として社会を構成するために必要な社会人基礎力
- ◇自国や地域文化への正しい知識に基づき、国際社会の中で対応できる力

県立高等学校教育のあり方

○未来への道を切り拓く力を育成するための方策

- ・すべての教育活動において ICT の活用を推進するとともに、遠隔授業センターの設置等により、学校の規模を問わず個に応じた選択科目等が設置できる手法を全県規模で研究。
- ・ Society5.0 時代において問題解決力や想像力を備えた人材の育成については、兵庫型「STEAM 教育」におけるカリキュラム検討を踏まえた、新たな学びを展開。
- ・ 特別な支援を要する生徒や外国籍生徒等については、通級制度や外国人特別枠制度導入校を中心に、より効果的なカリキュラム開発や教育相談との連携を強化。

○教育システムの充実・改革

- ◇全日制普通科学年制（特色類型・コース）、特色ある専門学科、職業学科
 - ・普通科の特色化を進めるうえで、生徒の興味や必要性に応じた学びの展開が、特に必要である場合には、学年制から単位制への改編を含めて検討。
 - ・普通科の特色ある専門学科への改編や、特色ある専門学科の内容を見直すにあたっては、文理融合による新技術を活用した探究活動を軸とした学科や、地域の教育資源を活用して地域課題の解決に取り組む学びを軸とした学科等の新設を検討。
 - ・コースについては、専門性の高さや生徒の学習ニーズ等を踏まえ、特色類型または専門学科への改編を検討。
 - ・職業学科における、技術革新に対応した学びの充実を目的とした、先端機器等を活用した先進技術の習得を効果的に進めるための教員研修や外部人材の活用等について検討。
- ◇定時制・通信制
 - ・可能な限り個別最適化された学びを実現するため、ICT による遠隔授業の展開や多彩な学びを提供できる学びのコンテンツ整備等の検討。

○通学区域・入試制度

- ・基本的には現行制度を維持すべきであるが、県境や学区の境に位置する地域について、選択肢が拡大していない等の課題も指摘されていることから、制度の全体的なあり方を、中長期的に検証していくこと。

○県立高等学校の活力を維持するための望ましい規模と配置のあり方

基本的には、普通科及び総合学科で 6～8 学級、職業学科の単独校で 3 学級以上

- ・少子化の進行を踏まえ、通学できる範囲に高等学校が多く設置されている都市部においては、生徒の学びの多様性を保障するため、発展的統合を含め、望ましい学級規模を維持する方策を検討。
- ・地方部においては、通学できる範囲に唯一となった高等学校もあることから、望ましい学級規模に満たない高等学校について、地域の支援を得ながら存続可能性の有無を含めて検討。その際、全国募集の拡充、教員の加配、学級編制基準の弾力化、ICT を活用した遠隔授業、スクールバスの開設、寮の設置、高等学校の市町立化を含めて、あらゆる方策を視野に入れて検討。
- ・総合学科については、望ましい規模に満たない場合は、生徒の興味や必要性に応じた系列の設置が困難であることから、近隣の高等学校との統合による規模の確保が難しい場合には、普通科または職業学科への改編を検討。
- ・職業学科については、小学科ごとに専門性の高い学びを展開していることを認識したうえで、地域産業の変化に対応できる学科のあり方を、地域の支援を得ながら検討。
- ・定時制・通信制の規模と配置については、個別のニーズへの対応の必要性を踏まえた、多部制高等学校の新たな設置等の可能性も視野に入れながら、各課程の機能・役割を発揮するためにふさわしい規模と配置のあり方を検討。

「県立高等学校教育改革第三次実施計画」(概要版)

令和4年3月
兵庫県教育委員会

第1章 計画の趣旨等

- 1 計画の趣旨**：第3期「ひょうご教育創造プラン(兵庫県教育基本計画)」を踏まえ、変化が激しく予測困難な時代を迎える中で、社会の変化に柔軟に対応し、自らの力で新しい社会を切り拓く力を育成できる県立高等学校であり続けられるよう、改革の基本的な考え方と方向性を示す。
- 2 計画の期間**：令和4～12年度の9年間。このうち、令和4～8年度の5年間の前期期間として取組内容を示す。

計画期間 〔令和4～12年度(9年間)〕	
前期期間 〔令和4～8年度(5年間)〕	後期期間 〔令和9～12年度(4年間)〕

第2章 計画の基本的な考え方

【これまでの取組】〔平成12年度～「県立高等学校教育改革第一次実施計画」、平成21年度～「県立高等学校教育改革第二次実施計画」〕

学びたいことが学べる学校づくり

- ◇ 新しいタイプの学校の設置 … 総合学科／単位制高等学校／中高一貫教育校／多部制単位制高等学校 等の設置
- ◇ 望ましい規模の確保 … 5組10校の発展的統合／6分校の募集停止／1分校の本校化
- ◇ 入学者選抜制度・方法の改善 … 通学区域の再編(16学区→5学区)／複数志願選抜の全県導入〔平成27年度〕

【高等学校教育を取り巻く環境】

- ◆ 予測困難な変化の激しい時代
(グローバル化の進展／Society5.0時代の到来／ICTやAI等の高度な情報技術の進歩／新型コロナウイルス感染症の蔓延 等)
- ◆ 高等学校教育を取り巻く環境の変化
(選挙権年齢の引き下げ／成年年齢の引き下げ／国における普通科改革 等)
- ◆ 少子化による生徒数の減少

	平成元年3月	令和3年3月	差
国公立中学校卒業生数	87,368人	43,129人	▲44,239人
県立全日制高等学校数	128校	125校	▲3校

【令和4年度】

- 第1学年の平均学級数 = 5.3学級
- 望ましい規模に満たない県立高等学校数 = 52／125校
〔普通科・総合学科で5学級以下、職業学科単独校で2学級以下〕

※令和12年3月の国公立中学卒業見込者数 = 39,778人(令和3年3月比 ▲約3,300人)

【実施計画における三つの柱】

- 1 県立高等学校の魅力・特色づくりの推進
- 2 県立高等学校(全日制)の望ましい規模と配置
- 3 入学者選抜制度・方法の工夫と改善

第3章 県立高等学校の魅力・特色づくりの推進

1 全日制普通科・総合学科

- ・普通科コース
 - 普通科新学科または普通科特色類型に改編
- ・望ましい規模の確保が見込めない総合学科
 - 普通科特色類型または専門学科に改編
- ・**新設** 普通科新学科
(学際領域に関する学科/地域社会に関する学科)
- ・**新設** STEAMに関する学科
STEAM教育を全学区で推進

※Science, Technology, Engineering, Art/Liberal Arts, Mathematics
を総合的・横断的に学ぶ課題探究型の学科

2 専門教育を主とする学科(全日制)

- ・職業学科
 - 専門分野の重点化や学科改編等を検討
- ・理数科・国際科
 - 生徒ニーズ等を踏まえて必要に応じて改編を検討
- ・新たな特色ある学科
 - 全国でも有数の新たな学びに対して生徒や地域のニーズがある場合は、全国的な募集等を前提に設置を検討

3 中高一貫教育校

- ・連携型中高一貫教育校
 - 生徒や地域のニーズ等を踏まえ、新設、連携中学校の拡充または連携の解消を検討

4 定時制・通信制

- ・多部制高校
 - 夜間定時制高校再編により新設を検討
- ・通信制高校
 - 通定併修等の充実に向けて配置のあり方を検討

5 教育内容の工夫と充実

- ・各校において学びの創意工夫に取り組む際の視点を整理
 - ①スクール・ミッション等に基づく魅力・特色づくりの推進
 - ②将来について考え、行動する態度や能力を育む教育の推進
 - ③多様な価値観を認め、主体的に行動できる力を育む教育の推進
 - ④新たな価値観を創造する力を育む教育の推進

第4章 県立高等学校(全日制)の望ましい規模と配置

【基本的な方向性】

◇多様で活力ある教育活動を維持するために必要な望ましい規模

- 普通科・総合学科で、1学年6～8学級
- 職業学科の単独校で、1学年3学級以上

◇原則、発展的統合により望ましい規模を確保し、配置を検討

【具体的な進め方】

◇発展的統合を行う学校数

令和7年度に7組16校

神戸・芦屋地域 (2組4校)	阪神地域 (1組2校)
北播磨地域 (1組3校)	中播磨地域 (3組7校)

令和10年度に6組12校

阪神地域 (1組2校)	丹有地域 (2組4校)
東播磨地域 (1組2校)	中播磨地域 (1組2校)
西播磨地域 (1組2校)	

◇地域の特性等を踏まえ、発展的統合を行わない望ましい規模に満たない学校については、地域の支援を得ながら存続する可能性、もしくは、新たに発展的統合を行う可能性について、市町教育委員会等と引き続き協議

第5章 入学者選抜制度・方法の工夫と改善

【基本的な方向性】

- ◇本計画期間中は、現行の5学区を維持
- ◇入学者選抜制度全体のあり方については、前期期間または計画期間の満了時において、必要な見直しを検討するため、教育関係者等による検討組織を設置

【具体的な取組】

- ◇2月入試と3月入試の定員の割合、選抜方法の見直しの検討
- ◇普通科新学科及びSTEAM学科の選抜方法の検討
- ◇隣接区域の新たな設定の必要性の検討
- ◇職業教育を主とする学科の選抜方法の改善方策の検討
- ◇第5学区の進学連携校方式のあり方の検討
- ◇多部制単位制高等学校の部間の募集定員の割合等の見直しの検討
- ◇外国人生徒にかかわる特別枠選抜の検証